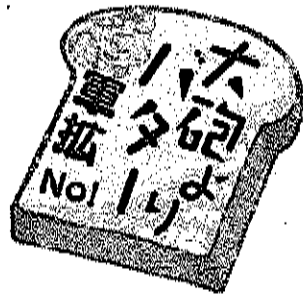


7/11 2.22

物価高実感、税金は生活に



斗さん(25)は、物価高騰のあおりを受ける中、岸田文雄政権が進める軍拡の動きに反対しています。

「ウクライナでの戦争が起きたとき、当初は遠い国の出来事としか捉えていませんでした」

物価が上がっていることを実感し始めてから、



創作フレンチ料理店オーナー 小高直斗さん(25)

戦争による影響の大きさに気づいたといいます。

「僕の店で提供している酒類はワインやウイスキーなどの輸入品が中心です。仕入れ値は戦争前よりも割ほど上がりました。1杯650円のグラスワインを、880円に引き上げた時は、正直複雑でした」

店を出す酒類に合わせて料理も輸入品に頼らざるを得ないと語ります。

「バターやチーズ、牛乳などの乳製品は欠かせません。魚や肉料理に使うソースは一から手作りで。最近は価格転嫁を避けようと野菜を使った

メニューを増やしています」

2021年1月にリニューアルオープンした際、オーナーに就きました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、度重なる営業時間の短縮要請や協力の未支給などに悩まされてきました。

「たくさん税金を払っているのに、そのお金が、人々が生きるための仕組みになっているのが疑問に思います。まして多くの犠牲をしいてしまふような軍拡の動きには反対です。今こそ『大砲よりバター』だと思えます」